

間文化現象学研究センター

Research Center Of Intercultural Phenomenology



「現象学運動」の世界的拠点として独自研究と交流を推進 異文化と自文化の関係を深層から解明し、「関係」の知を拓く

間文化現象学研究センターは、異文化と自文化の関係を深層から解明することを目的としています。自文化はなじみのものですが、しかし、今や遭遇があまりに頻繁になり、なじみのものと不気味なものとがぶつかりあっています。

本センターは、現象学的な研究方法によって、異文化と自文化の「間」に注目しつつ、「関係」の知に道を拓きます。



研究センターとしての活動

間文化現象学研究センターは、科学研究費助成事業の研究計画と連携して、毎年国際的なシンポジウム、ワークショップ、講演会などを開催しています。これまでに招聘した世界の先端的研究者は数十人にもものぼります。他方、センターはメンバーを各地に派遣して独自研究と研究交流を推進しています。さらに内外の著作活動の支援も行っています。これらの活動を通じて今では、現代哲学の世界的展開である「現象学運動」の有数の拠点として各地の研究者から注目され、多くの訪問を受けています。

現象学運動について

科学はなにかを明らかにしますが、同時になにかを覆い隠します。現象学は、それを一度遮断し、覆い隠された真の経験を取り戻し、そこから人間と世界を捉え直すための方法を示しました。これにもとづく研究を継承・展開しつつづけているのが現象学運動です。

右図：本センターは、4つのプロジェクトを通して、現在の間文化的な諸問題を立体的な統一性のなかで解明しています。



主な研究テーマ

- 間文化性を現象学の視点から解明する
- 研究者の間文化的研究発表の場を整える
- 次世代の研究世代を形成する
- 間文化現象学を軸とした研究交流



センター長：鈴木 崇志 (文学部 准教授)
 主な研究拠点：衣笠キャンパス
 お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 間文化現象学研究センター事務局 TEL: 075-465-8225 FAX: 075-465-8245
 〆: jinbun@st.ritsume.ac.jp <https://www.ritsume.ac.jp/research/center/interculturalphenomenology/>